



発行
豊中市人権教育推進委員会協議会
機関誌編集委員会
(豊中市教育委員会企画課内 社会教育課内)
電話 06-6458-2580



令和4年度(2022年度)人権内訳募集入選作品より

巻頭言

八月がきたらではなく毎日考えたい

会長 青木 康二

8月18日、人権平和センターでのテーマ「つないでいく記憶と記録」での豊中交響とサハリン引き上げ慰問団献演りに参加しました。

8月6日「広島原爆の日」、玉井町2丁目第2公園に立ちました。1945年6月7日からの玉井町空襲被害史実記録施設開館を本年その日に豊中市が祝賀しました。6月の空襲による10名の犠牲で家は吹き飛び、焼夷弾で一帯焼野原状態となり、多くの死傷者を出したとあります。その足で老人慰いの事業前に向かいます。本年2月18日に日本赤十字協会豊中協議会(豊中市会員)活動のひとつとして撮影された「舊時代の報」(長崎で勉強した勤労女学生への慰問書)2半の部本を見つめました。そして人権平和センター3階へ、昨年「平和歴史室」が設置され、まさに「つないでいく記憶と記録」豊中館のコーナー、玉井町で発見されたと平井トシ雄氏の後援者や翠ち華とされたP51戦闘機の翼、万福山の爆弾池



周囲の破壊し尽くされた民家並居の写真や、「ある兵士の手紙」コーナーも設置されました。

8月9日「長崎原爆の日」今年2月24日、ウクライナに響く聞く空襲警報サイレンは、あのどカドンの悲鳴そのものでした。被災者代表の言葉です。ウクライナ戦争の「戦争は女の顔をしていない」を語った人の一人は「過激的な本では、戦争の悲惨さは「死者3千万人」といった数値となるが、実際に死ぬのは、それまでの人生があり戦争がなければその後の人生もあった」と述べました。戦争とは、その人が大事にしている人生(生活も夢も家族も)すべてを奪ってしまつものだと理解します。

いつまで続くのでしょうか。「もっと武器を、弾、弾が足りない」「ロシアはあらゆる手段を持っている」、武器を投入すればするほど、戦争はますます長引き、より多くの民間人、民間兵士が死ぬことにつながる…8月18日「つないでいく記憶と記録」の場での語り部は、「もう止めて!」と語られました。

私たち人権協も「自らの記でやる事が今ある」と思いました。

★総会報告★

11月13日(金) アウア文化ホールにて令和4年度(2022年度)豊中市人権教育推進委員協議会の総会が開催されました。新型コロナウイルス感染症の影響で3年ぶりの対面開催でしたが、93名の方々にご出席いただきました。昨年度の事業報告・会計決算報告・監査報告および本年度の活動方針案・事業計画案・予算案の提案が行われ承認されました。

総会では本会の方々にご挨拶をいただきました。その中にロシア軍のウクライナ侵襲に関するお話がありました。豊中市でもウクライナの避難民の受け入れを行っている、日本在住のロシアの方に対する人権意識が起きているという内容でした。「国も早く人権が尊重しられる平和なときが訪れることを祈るばかりです。」



★総会後の研修会を終えて★

総会後の研修会では人権啓発ビデオ「夕焼け」が上映されました。中学2年生の主人公、朝日は家族のことは家族で守るものだと思いき、古い家の世帯や家事に追われる生活を送っていました。しかし、小学校時代の担任であり元カブラーであった母との交流によって、自分のおかれている現状や本心の気持ちを見つめ直し、将来に向けての一歩を踏み出すことが出来ました。今の状況をしかるものない事だとする思い込みを「しかるものない事ではない、認めなくていい」と、気づくことができれば、変えられることもあるのだと考えさせられたビデオでした。

ビデオの上映後、地区代表委員の活動の進め方や事務手続きの方法などが説明の研修会を終えました。

十七中地区責任委員 加納 昌樹

人権教育をすすめる市民の集い

(豊中市人権月参加事業)

開催要項

主 旨 豊中市人権教育推進委員協議会はすべての市民の人権意識を高め、より人権尊重の輪を広げるため「市民の集い」を開催します。

開催日 令和4年(2022年)11月11日(金)

時 間 13:00～15:30(受付12:30～)

会 場 豊中市立アウア文化ホール

プログラム

意見発表 八中地区

記念講演 講 師 スマイリーキクチ さん

タイトル インターネットと人とのつながり合い

～交流、確かな人間にされた～



「人権教育をすすめる市民の集い」参加について

「市民の集い」に参加ご希望の推進委員の方は各地区代表委員または常任委員に直接お申し込みください。一般の方は下記までお申し込みください。定員20人 申込締切11月9日(水)
手紙通知・筆記通知・保育あり(保育は2歳以上、11月4日(金)までに要予約)

参加申込(問合せ先)

〒561-8501 豊中市中橋環 3-1-1

豊中市人権教育推進委員協議会事務局(社会教育課内) 電話 06-6858-2580 FAX 06-6846-9649

令和4年度(2022年度) 活動方針

新型コロナウイルス感染症がいまだに終息をみせません。非常事態宣言等が繰り返され、人権協会の活動も一度は中止されました。とりわけ若年・地区委員の確保のご苦労には感謝いたします。

感染症大を克服しての「市民の責め」でした。意見書では、区内南小学校長より「安心できる学校づくり」として、子どもの安全を見守るといふ仲間づくり、一人ひとり「守られ・贈られる」存在であり、「安心・生きる力」を手に入れることで、「未来に生きる子どもの育成」について報告されました。

記念講演は「生命の星」と題して造形作家の野宮喜さんの講演でした。星や水など自然エネルギーで動く立体作品に囲まれ、子どもたちが自然や命の尊厳を学びながら、生き方考える場「地球アトリエ」構想を、知財の未来館として提案されました。その世界観は、世界のあらゆる国々を共に素晴らしい星に生きる「地球人」と捉え、アート(作品)はそれを成し遂げるメッセージだと捉えられました。

一方、ミャンマーでは軍事クーデターが起こり民主主義の象徴とされるスーチー氏を拘禁し、中国

は香港の民主主義を揺るがし、ウイグル自治区の人権弾圧など、不当な干渉を続けています。そして、ロシア軍のウクライナ侵襲が始まり、いかに自由で平和な世界が奪われました。どうして多様性を認め合う世界観に立てないのでしょうか。

今年は全国水平社創立100周年を迎えます。「一句は一句より強く一語は一語より感通心きたり、三千の念ふみな面を伏せ敬慕の声、国内に起るる」自らを都委員とし、そしてエタであることと誇れと呼びかけました。水平社宣言は、標準差別の機軸をめぐす青年たちにより起草され、人々により運動は支えられてきました。

「人の節に執られ、人節に光あれ」と述べられる「水平社宣言」は、日本初の人権宣言とされ、社会のあらゆる人権問題の克服に向けた原点となってきました。しかし、今なお差別や偏見に苦しめ、世間や分断に心を痛める人々がいます。

人権協会は平和で差別のないより良い都中市の実現に向けて、改めて水平社宣言の精神からごらなる学びの一歩を刻んでいきましょう。

※原典(きょう)・・・すずりやくこと

つなごう つなげよう 人権の輪

一 中校区推進委員 大谷 友紀

スマートフォンの普及で、インターネットがより身近なものとなった。その一方で情報発信の容易さや匿名性から自分と直接関係ない事項でも、これまでの経験や思い込み、偏見から過剰に反応する人が増えてきているように感じる。その結果として起こる人権被害は大きな社会問題ともなっている。車庫場めぐりに被害者とならないように、これらを使用する際は「正確な情報は記載しない!」「悪意な投稿ができない時は時間をおく!」といったことを意識していく必要があると思う。

子どもの頃の私に、母がよく言った言葉、「自分がされて嫌なことを他の人にしてはいけない」

今、同じことも自然と感に湧いている私がいる。人権意識とは自分がそうされたらどう感じるかを考えることから始まると思うから…

十一 中校区推進委員 中谷 純祐

人権協会の活動を通じ、今まで無知としていた「人権」という言葉について、自分なりに色々と考えをきっかけをいただきました。書く楽しい経験として、どちらかというらずっと続けてきた「人権」を、より身近なものとして意識できるようになったかと思います。しかしそれを日々の生活の中で活かしているかというと、家族や身近な人へ贈る言葉が残りよがりの感情に任じたものになっていたり、自分の一方的な思いの押し付けになっていたりと、勇を付けようと意図は強かっているつもりでも、反省することは何らの暇です。言葉の持つ責任の重さ、日常の言葉遣いの難しさを今まで以上に感じています。

「人権」とは?身近なもの、でも私にとっては今でもやっぱり難しいもの、まだまだ学びは続きます。

学校では今

ここ最近、集會ごとに生徒に向けて「想像力を働かせよう」という話をしています。こうしたらこうなる、こんなことを買ったら誰かが嫌な思いをする、だから運動を起す前に想像力を働かせようと思えています。

自分が年を取ったためか、校長という立場にいるからなのかもしれませんが、勝手に任された行動であったり、口から発してしまっただけのことを考えてなかったりといったことがあります。まだまだ未熟な生徒だけでなく、大人どうしても以前よりも多く遭遇するようになった気がします。みんなが自分のことで一杯一杯なのが、言ってもおかないと併をするように感じてしまっているのが、あるいは劇画的にものが読める良い時代になった気なのかというんことを考えてしまいます。

想像力は、共通と取り違えない能力です。他人に異議がかる事情を自分ならと感じることは、行

豊中市立第十一中学校長 浅田 勝利

動に対して「人としてどうなんだ」という自問や自省につながるはずだと思っています。

他人ではないのだからわかるはずはない、自分と他人とは違うからそう感じることは防げない、確かにそう言ってしまうとそのままの事実を認める限りでは、人と人が真に分かり合えることは無理なのかもしれない。

しかし、理解しようとする姿勢や想像力は、人が人である限り放棄せず鍛え続けなければいけないことだと、今こそ考える必要があると考えています。



基礎講座①②を受けて…



①豊中市議会の人権委員会と今後の課題
又豊中市教育委員会人権教育推進課 浅田 幸一



②全日本平和100周年を記念して
豊中市人権教育推進委員会協議会副会長 浅田 浩史

6月、基礎講座①②が開催されました。リアル・オンライン同時開催で多くの方が参加されました。基礎講座は、はじめて人権協の推進委員になった方を対象に開催される講座です。

①では、人権協のこれまでの歩みや今後の課題についてのお話。②では、地域別部会にの歴史から現在多様化する人権課題についてなど、一つひとつ考えさせられる内容で、正しく知ることの必要性を改めて感じました。

書記 藤田 みどり

編集後記

新型コロナウイルスの感染拡大は「第7波」を迎えました。この間、多くの人が不安を感じています。その中でも、第104回全国高校野球選手権大会が甲子園球場で開催され、3年ぶりに観客の入場制限を設けずに開かれ参加49校が、17日間のわたり熱戦を繰り広げました。そしてお盆には帰省先や行楽地へと、人々はそれぞれの思いを込めました。

私たちの運動も行動制限を受けない、研習会や地域活動へと向かいたいものです。

最後になりましたが、「じいさん」163号発行にあたり、ご執筆・ご投稿いただきました皆さまに、心からお礼申し上げます。

書記 奥水 千帆